

平成 2 6 年 第 3 回定例会

(9 月 2 9 日)

一 般 質 問 資 料

(1 回 目)

自由民主党千葉市議会議員団
向 後 保 雄

平成26年 第3回定例会（9月29日）

通告時間：25分

自由民主党千葉市議会議員団の向後保雄でございます。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

1 中央港のまちづくりと企業誘致について

まず、中央港のまちづくりと企業誘致について伺います。

前回の第2回定例会においても中央港地区のまちづくりについて質問をいたしました。本市としてどのようなまちづくりを目指しているのかという質問に対して、千葉みなと駅に隣接する交通の利便性やウォーターフロントとしての立地特性を生かした業務・商業を中心としてサービス、居住等の各種機能が複合されたコンパクトな市街地の形成を目指してゆくとのことでした。また、旅客船さん橋や港湾緑地の整備を機に、これまでの本市には無い港を核とした海辺空間を創出することにより市民が気軽に集うほか、他市からの来客でも賑わう街・駅・海が一体となった魅力ある街並みの形成を目指すとのことでした。平成27年度末までには旅客船さん橋2基のうち1基完成する予定であるとのことですが、聞くところによりますと、浮さん橋等の整備は平成16年から始まったとのこと、既に10年経過しております。なぜこんなに長い年月がかかったのか、その原因のひとつは千葉県と漁連との協定で護岸工事が4月～8月の5か月間しかできないという点にあり、この間土地の所有者にとってはただ遊ばせておくのでは固定資産税を支払うことができないと言

う事で、この地区のまちづくりにふさわしくないパチンコ店が2件できてしまったわけで、やるせない思いでいっぱいです。そこで伺いますが、平成16年から昨年の25年度までの約10年間に投じてきた整備事業費はいくらなのか、また、国費・県費・市費の内訳をお示しく下さい。

次に、企業誘致について伺います

千葉県企業庁が供給する工業用水のうち、千葉地区の工業用水は、契約水量がいっぱいで、新たに契約できるのは、房総臨海地区になるとのこと。千葉地区は1 m³あたり23円で、全国平均22円64銭に比べてそんな金額ですが、房総臨海地区は1 m³あたり87円で非常に高かったところ、昨年63円に引き下げられましたが、まだ非常に高いため既に立地している企業にとってはコスト面で大きな障害となっているとのことでもあります。

一方で、新港地区においては、千葉県企業庁の供給する工業用水の追加供給が難しい状況にあるとのことでもあります。このような状況では、新港地区への新たな企業の立地のみならず、既に立地している企業の追加投資や増産にも悪影響があると思われませんが、本市として何らかの対策を講じているのか伺います。

2 予防給付の見直しと地域支援事業の充実によるサービスの多様化について

次に、介護保険法の改正により要支援者に対する介護予防給付については、市町村が地域の実情に応じて、住民主体の取り組みを含めた多様な主体による柔軟な取り組みにより、効果的かつ効率的にサービスを提供できるよう地域支援事業という形式に見直すとしております。ここで言う多様な主体とは、市民ボランティア、NPO、民間事業者、社会福祉法人等の地域資源であるとし、サービスの種類・内容・運営基準・単価等も市町村の判断にゆだねられるとのことです。移行後の事業も、介護保険制度内のサービスの提供であり財源構成も変わりません。現行の予防給付は、平成27年～29年度にかけて段階的に廃止し、事業の移行にあたっては、既存介護サービスの事業者の活用も含め、多様な主体による事業の受け皿を整備するため、地域の実情に合わせて一定程度時間をかけて行うとのことです。

今まで全国一律のサービス内容であった訪問介護については、新総合事業に移行することにより、多様なサービス主体により提供され、サービス量が増加し、利用者が多様なサービスを選択可能となる事を狙っているわけであります。要するに、身体介護等の訪問介護は既存の訪問介護事業所、掃除、洗

濯等の生活支援サービスは、NPOや民間事業者、そして、ゴミ出し等の生活支援サービスは、住民ボランティアが担うというように多様なサービス主体によって利用者の多岐にわたるニーズに対応することを目指しているのです。

そこで伺いますが、要支援者に対するサービスの多様化に関して、サービスの主体をどのように広げようと考えているのか伺います。

3 郷土の歴史教育について

次に、郷土の歴史教育についてですが、中国・韓国との領土問題が問題となって久しいですが、しっかりと正しい領土教育をすることは自分の国を愛する愛国心にも通ずるものだと思いますし、それと同じく自分が住む町の郷土の歴史を義務教育の中で学ぶことは郷土愛を育み、郷土に誇りを持つことにつながり、とても大切なことだと思いますがいかがでしょうか。千葉市と千葉氏とのかかわりは非常に深いにもかかわらず、源頼朝から師父として慕われ、鎌倉幕府樹立に大きく貢献したとされる千葉氏の三代目当主の千葉常胤の上半身の石像は千葉神社裏の出世弁天脇に寂しく飾られております。

今を遡る888年前、平安時代末期の大治元年(西暦1126年)に千葉常胤の父、千葉常重が緑区の大椎町にあった大椎城から亥鼻山に移転し、館を築いたのが千葉という町の歴史の始まりと言われております。しかし、その頃、^{ちだのしょう} 匝瑳郡千田荘(今の多古町のあたり)を本拠地としていた千田家が中央の平家との婚姻関係や摂関家の威光を背景に千葉家の所領を奪い取り、千葉家は窮地に立たされていきました。その後、治承4年(西暦1180年)に、源頼朝が平家打倒を掲げて伊豆で挙兵するも石橋山の戦いに敗れて房総に逃れてくると、千葉常胤はいち

早くこれに味方をすることを決めます。その時、常胤の留守を狙って千田親正が千葉家を攻めると、孫の成胤が手勢七騎で応戦し勝利するという快挙を成し遂げました。これが「結城浜の戦い」であります。この勝利によって頼朝側に房総周辺の武士団が次々と加担し、一挙に形勢を逆転させて鎌倉に入ることができ、このとき頼朝は、常胤に「すべからく司馬をもって父となす（あなたを父だと思おう）」と感謝され、千葉は鎌倉に次ぐ関東第二の都市として発展したと伝えられています。

そこで、郷土千葉の歴史教育について伺いますが、このように自分が住んでいる郷土の歴史を学ぶことは、領土教育の必要性と同様に、まずは身近なところで、子供たちが生活している千葉市への郷土愛の醸成につながると考えますが、郷土愛を育む教育について、当局としてどのように実践されているかお示しくください。

4 イングリッシュキャンプについて

最後に、自民党会派の有志6名で、7月の15日から17日の2泊3日で北海道へ視察に行っていました。最終日に北海道庁においてイングリッシュキャンプについて学んできましたが、是非とも本市においても実施すべきであると思われましたので質問をさせていただきます。

政治や経済をはじめとする様々な分野でグローバル化が進む今日においては、豊かな語学力やコミュニケーション能力、他者を尊重する姿勢などの資質を備え、国際舞台で活躍するグローバル人材の育成が急務となっておりますが、一方、日本人の英語力はアジア諸国の中で最も低いランキングに位置しており、海外へ留学する学生の数も減少傾向にあり、グローバル人材育成に向けたさらなる環境充実が必要となっております。

TOEFLの国別ランキングでは、日本は163カ国中135位で遅れております。1位のオランダでは、小学校1年生（5歳）から英語教育を行っており、脳の働きに着目したメソッドやカリキュラムを取り入れ、自然に生活の中で英語に触れる環境を作り、幼少期から英語に触れる環境を整備しているとのこと。

そこで、北海道教育委員会では、各地域で子供た

ちが幼少の頃から英語や異文化に親しむことのできる機会を増やしてゆく必要があると考え、子供たちが楽しく英語に触れ、また保護者の方々がグローバル社会における子育てのあり方について学ぶ機会を体験できるよう、平成25年度からイングリッシュキャンプを開始しております。

そこで、本市としては、英語教育の低年齢化や小学校からのグローバル人材育成の必要性が問われている現代、そのような人材の育成をどのように実施しているのか伺います。